

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	音楽基礎 3
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	全専攻	開設期	前期
対象年次	2 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	BAN		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
音楽制作に携わる人として必要な音楽基礎知識、音楽理論、音楽に関する文化、音に関する知識を学ぶ。まず音楽制作の現場で音楽上でのコミュニケーションを円滑に進めるためには、楽譜が読める、書くことができることは基本である。よって音やリズム、楽譜に関する知識、用語、理論を身につける。そして知識を覚えるだけでなく、「音」というものの性質を学び活用、応用できるようになることや、さらに音楽の背景にある科学、世界の文化や知識を得ることで、幅広い対応ができるスキルを身につけることを目的とする。					
到達目標					
本科目の到達目標は次のとおりとする。音響の仕事についた時、そしてその採用試験対策として必要な音楽のコミュニケーションツールとしての譜面を理解できるようになること。譜面の構成の仕方、音符休符の種類、リズムの表記法、音名を理解し、それらを読むことができること。音楽用語、標語、記号を覚えて書くことができ、活用できるようになること。コードについての音構成、表記を理解できるようになること。それらコードの響きの違いもわかるようになること。音を科学的に知り、聴けるような知識を身につけること。楽器の種類とその楽器に関する知識、音楽ジャンルとその特徴や歴史的背景を知ること。					
教育方法等					
授業概要	この授業は、1年次の復習を交えながら学習する。覚えるべき重要箇所は板書してノートに書き写すことでことで理解を進める。授業内容によっては課題プリントを解くことで理解できることもあるので必要に応じてプリントを配る。授業後半では理論を覚えるだけでなく音楽への見識を広く得るために、音楽ジャンル分析や研究、画像で楽器の形を見たりその音を聞いたりし、その名前、性質や歴史などを学習する回を設ける。いろんな音に対する探究心を持つように進める。それらのレポートを提出することもある。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。必ず筆記用具、ノート、五線譜を用意すること。授業で使用したプリントやノートはいつでも振り返って確認できるように学んだ順にファイルして毎回の授業で持ってくる。普段から、音楽を流し聴きにとどめず、仕事の結果としての作品として鑑賞、分析、研究する習慣をつけておくこと。授業中の私語、指示した時以外の携帯電話の使用や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法		割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	音楽知識確認テスト		これまでの音楽的な理解度を確認する。		
2 回	音符、休符の種類、書き方		五線譜、小節線、音部記号、音符、休符についてわかる。書くことができる。		
3 回	拍子とリズム		付点音符、付点休符、複付点音符、複付点休符についてわかる。書くことができる。小節と拍子の表記についてわかる。拍子と強弱がわかる。アウフタクト（弱起）がわかる。		
4 回	シンコペーション（切分法）を含んだリズム		これまでのリズムとシンコペーションの読み方がわかる、		
5 回	3 連符を含むリズム		これまでのリズム表記の復習と3 連符がわかる。書くことができる。		
6 回	小テスト		これまでの復習とまとめ。小テストでチェックして、理解してなかったところ覚えてなかったところをわかるようにする。		
7 回	速度に関する表記、記号、標語		速度記号、速度表記、標語の意味がわかる。書くことができる。		
8 回	記譜法（1）	楽器研究	音名（固定ド）、ト音記号、ヘ音記号、変化記号の意味がわかり、書くことができる。楽器の知識を得る		
9 回	記譜法（2）	〃	反復記号、ダイナミクス記号、略記法の意味がわかるようになる。書くことができる。楽器の知識を得る		
1 0 回	記譜法の小テスト	〃	記譜法の復習と小テストで理解してなかったところ、覚えてなかったところをわかるようにする。楽器の知識を得る		
1 1 回	音程（1）	楽器研究	度数と長短	楽器の知識を得る	
1 2 回	音程（2）	〃	長短、完全音程	楽器の知識を得る	
1 3 回	音程（3）	〃	減増音程について	楽器の知識を得る	
1 4 回	音程小テスト	〃	音程の小テスト。できなかったところをわかるようにする。	楽器の知識を得る。	
1 5 回	前期まとめ	前期の重要な箇所のまとめで、理解してなかったところ覚えてなかったところをわかるようにする。楽器ジャンル分類。			